

# 令和4年度 第2回 長与町都市計画審議会

## 議 事 録

日時：令和5年2月24日（金） 9時30分～

場所：長与町役場 4階全員協議会室



## 令和4年度 第2回 長与町都市計画審議会 議事録

### 1. 日 時

令和5年2月24日（金） 9時30分～11時50分

### 2. 場 所

長与町役場 4階全員協議会室

### 3. 出席委員（10名：委員総数12名） ※敬称略

山本 喜代治、峰 忠彦、松田 浩、佐野 浩子、木村 道夫、土井 正英、  
山崎 昌美、山口 憲一郎、岩本 健、井手 宏

### 4. 議 案

第1号議案 長与町都市計画マスタープランの改訂について

### 5. 審議結果

第1号議案 原案の通り可決

### 6. 議事内容

#### 【挨拶】

峰会長

長与町長

#### 【議事説明】

事務局説明

#### 【質疑応答】

##### （松田委員）

P30の将来人口フレームについて、青色の折れ線が人口問題研究所の推計で出されているもので、赤色の折れ線が目標推計人口として出されている。このグラフでもいいと思うが、P11で国勢調査の実施でR2の確定値が出ているから、その数値を使って人口推計を算出するプログラムに当てはめれば、より正確な推計が出せるのではないか。出すのは難しいのか。

##### （事務局回答）

計算プログラムがどのようなになっているのかは分からないが、委員がおっしゃるとお

り、プログラムに当てはまればすぐ出るとは思う。だが、今回のグラフが上位計画である総合計画に基づく人口ビジョンであり、何年かに1回しか算出をしないものとなっている。

**(松田委員)**

そうであれば、そのことを書いた方がいいのではないか。先に実施した都市計画マスタープラン検討会でも指摘されているので、それをきちんと示して明確にした方がいいと思う。P11と数値が違うのは分かったうえで、P30ではこのグラフを用いています、というような表現でいいと思うので。

**(事務局)**

承知した。P30のグラフの下に注意書き等で示したいと思う。

**(峰会長)**

それでは、P30は今の意見にあったとおり修正をお願いしたい。

**(佐野委員)**

P26の一番下の項目に「多様な主体が協働して取り組むまちづくりの視点を強化」とあり、この文章自体はいいと思うが、「多様な主体」と聞いたときに、私自身人権関係をやっている身として、多様性というワードが色々なところで使われていて、ジェンダー的なイメージが浮かんできた。この計画書を詳細まで拝読すると、この多様な主体が事業者や行政のことであると理解できるが、ここの文章だけを見ると、多様な主体が色々発想できるので、もう少し丁寧な表現をしていただきたいと思う。

**(峰会長)**

色々な形でジェンダーのこととか関係してくるので、この多様な主体をどう表現するのかというところでの意見だが、事務局はどうお考えか。

**(事務局回答)**

委員おっしゃるとおり、中身を読んでいけばこの多様な主体が分かってくるが、この文章だけを見れば、色々なことを想像してしまう方もいらっしゃるので、P26の「多様な主体」の表現については、すぐすぐ代案はいえないが検討させていただく。

**(松田委員)**

産官学をはじめとする多様な主体とかの表現でいいのではないか。

**(岩本委員)**

P98に記載のある町民や民間事業者等、そういったものを指すのか。

**(事務局回答)**

そうである。多様な主体というフレーズだけでは分かりにくいので、P98の文章も考慮し、代案を考えたいと思う。

**(峰会長)**

それでは今の意見をふまえて事務局で検討をお願いしたいと思う。

**(山崎委員)**

P30についてだが、10年前の将来人口フレームは何万人だったのか。

**(事務局回答)**

10年前のH23に改訂した都市計画マスタープランは、その当時の上位計画の基本構想に基づき見直しをしており、その基本構想では51,000人と掲げられており、都市マスでも同様に51,000人で掲げている。

**(山崎委員)**

10年間で9,000人減ったということであるが、10年前が51,000人で計画書を作成し、今回が42,000人で計画書を作成したということは分かるが、なんで今回は目標値を42,000人にしたのかというのが、この文章だけでは分からないので、10年前はこういうことがあって51,000人にしていたが、現在はこういうことが理由で42,000人にしている、というような説明を入れた方がいいのではないかと。いきなり目標が42,000人です、と言われても、どこがどう変わったのかというイメージがしづらい。

**(峰会長)**

基本的に長与のこれからの一番の課題である「人口問題」のことについてだが、前回の都市マス時は、経済も進んでおり、長与町の開発についても高田南を中心に事業を行ってきており、それらを想定したうえで51,000人と目標にしていたんだと思う。一方、今回の42,000人について、この数値をキープするのは長与町にとって、とても大きな努力が課せられるのではないかとと思われる。なぜかという、高田南等の人口増を見込んでいるかと思うが、世帯でいえば1世帯あたり3人ぐらいの時代であり、人口も急激に増えることはない。そして今回の都市マスに至っては、新しい人口が増える要素である開発についての方向性が見えていないし、書いていないと思われる。だから、この42,000人をどう維持させていくのかは、長与町の大きな課題である。目標を言うだけではなく、実態を

伴わないといけないと思ってるので、そのことについて皆さん一人一人の意見をお聞きしたい。長与町の人口減少について社会情勢等もあるので仕方ない部分もあるが、減少を緩やかにする方策等、委員皆さんからお話いただければと思う。井手委員の方から順番にお願いしたい。

#### (井手委員)

確かに10年20年前の都市マスと比べれば、あまり夢のある内容が書かれていない。どうしても時代がそうってきているので、都市計画に携わった者の立場からすれば当たり前なのかなというところで受け止めている。町民の皆様からすると夢が足りないというような印象もあるかと思われるけれども、会長がおっしゃるように人口維持させることはとても大変なことである。そのための色々な方針をできるだけ計画書の中に盛り込んでいると、私は評価している。商業施設をすぐ立地させるとかは、夢物語に近いので、地に足のついた、公共交通機関のサービスを充実させるとか、そういったことがきめ細かく書かれているし、市街化区域以外の部分のPRの仕方とか新しい住み方とか、そういったことも書かれているので、私としては、つくり方全体的に評価している。

#### (岩本委員)

改訂版についてのつくり方については、住民の意見や課題、将来の取り組みについて網羅していると思う。それを如何に具体的に取るかということも必要であるが、今、庁内で横断的に人口減少対策チームみたいなことで何かやってるのか。これからしていくのか。そういったことを仮にしていけないことには、企業がないから雇用して働く場所がない、高齢者ばかりになって、若者は町外に出ていくことになる。そういった現状も仕方ない部分もあるが、将来の対策について長与町としても何か具体的な取り組みが必要なのではないかなと思う。隣の長崎市も全国で2番か3番目に人口減少しているとマスコミに報道されている。長与町も高田南の大規模開発やこの前の審議会で挙げられた丸田の開発を進めているが、以前のような長崎市のベッドタウンとして、長崎市から居住してくる人も多くなく厳しいのかなと思う。それともうひとつ、常に「コンパクトシティ」というワードが出てくるが、ある程度人口減少を可として、例えば長与町は規模的に人口35,000人が適正なまちづくりの人数である、というような考えが入っているのか。

#### (山口委員)

人口については、法律とかに沿って算出している数値だと思うので、松田委員が言っていたように、そういった根拠はしっかり示した方がいいと思う。10年間の計画プランになるので、ある程度はその数値についてやむを得ないのかなと思う。長与町はこれから65歳以上の高齢者が増えていく時代になるので、そういった時にどう変わっていくことになるのかは予想しづらいのかなと感じる。人口のことではなく、後で聞こうと思っていた

ことだが、これから高齢者が増えていく中、「公共交通の手段」がどうなのかと。高齢になり自動車の免許書返還もしていくとなると、P44に書いてあるような公共交通の色々な可能性でルートを増やすとか、そういったことをしていけばまた長与は住みよい街と思われる場合もある。それとP44に記載の「コミュニティバス」や「乗り合いタクシー」のことが書いてあり、これ自体とてもいい考えだと思うが、議会の中で話していく中で、コミュニティバスとかは、赤字路線が多い。必要だと感じるが、そういったことも考えたうえで取り組んでいただきたい。乗り合いタクシーについても何年か前にニーズとかを研究して取り組んでいたと思うが、成果が出たのかどうかあまりいい声が聞こえていない。そういった意味では考えて行っていただきたい。趣旨に沿えなかったかもしれないが、私からは以上である。

#### (山本委員)

この審議会以前の都市マスの検討会時にも同じような意見が出て、事務局から説明があった。その時は、ダイヤモンドシティ等のビッグプロジェクトがあり、人口を増やしていくイケイケなスタンスであったが、情勢が変わり縮小した方向に向かわざるを得ないというようなことであった。そうした中でP30の文章がどうしても住宅地の形成等、都市計画の視点からみて人口を増やそうということであるが、もう少し広げて、東彼杵町がやっている「特別町民制度」とかは、その事業に基づいて東彼杵町のファンを増やしていき、関係人口を増やしていく取り組みをしている。このような地道な取り組みをしていって人口を増やしていく、というようなスタンスも必要で、それを書いていた方がいいのではないかと思う。今のP30の文章だけでは、これで人口が維持できるのか、というようなことにもなるので、幅広い観点から将来人口フレームを維持していくというスタンスも必要ではないかと思う。以上である。

#### (松田委員)

P30の将来人口フレーム42,000であるが、10年前は51,000人でどうして変更したのかという議論になっているが、この将来人口フレーム減少は大村市以外どこも同じようなことになっていると思う。それではこの人口減少に対応したまちづくりをどう考えるかということで、コンパクトシティ等、色々アイデアが浮かんでくると思うが、そのひとつとして、1か月前に吉野ヶ里町松隈地区に行ってきたが、そこで何をしているかということ、小水力発電をしている。たった36kwで40世帯の方全員に株主になっていただいて、山口委員がいていたようなコミュニティバスや乗り合いタクシーを無償で支えている。こういったまちづくりをしていて、私含めて高齢者はそこに住んでみたいね、というようなまちづくりであった。そこでは野菜やお茶を栽培している。長与でも山口委員がされてるようなみかん栽培や畑が多くあるので、長与もそういったことをすると、長崎市の方から長与町に住んでみたいね、それで本当に移住してくれるようなまちづくりができる

思う。都市マスの中にも農業環境の保全とかが書いてあったので、そういった都市マスをつくっていただきたい。それと絵に描いたようなまちづくりになったらいけないと意見があったが、3年に1回ぐらい進捗状況を示して進み具合が確認できるような場があれば、都市マスに基づいてまちづくりしてるな、という住民でも分かる「見える化」になるんじゃないかなと思う。

#### (佐野委員)

長与の特徴といえば、「学園都市」「住みよい住宅地」、これは手放せないものだと思う。先日、県庁におられる学校の先生方と話す機会があったが、うちの子どもは長与町の学校に行きたいというような声を聞いた。それぐらい長崎の中でも長与町は教育に強いかなと思う。この基盤は崩したらダメであるし、より充実させていかないといけないと思う。それから先程、峰会長が言っていたが、この都市マスの中に高田南や嬉里・丸田地区に住宅造成され、人口増を見込んだ夢のあるようなことを少しは盛り込んだ方がいいのではと思う。そうすると自然流出と別に、これぐらいは人口維持できるだろうというようなことが分かると思う。それと家族と話しているが、少子化は日本全国的に免れないのかなと。子供が生まれないわけであるから、そこは本当に難しいことである。なので、さっきも言ったように、高田南でこれぐらい人口維持が期待できる、というような形でわかるものは、タイムリーな都市マスに盛り込んでもいいのではないかなと思う。これぐらいを見込んでいる、というようなことでいいので。それから山口委員が言っていたが、乗り合いタクシーも長与町はやっていた。だけど、結局何年かであまり成果が上がらなかったというのは私も聞いていて、非常に難しい。松田委員が言っていたような無料で乗り合いタクシーとかを利用できるのは、長与ぐらいの規模でそれができるのかというところもある。すごくいい事業だとは思いますが。長与も色々な施策を行っているが、それが中々実ってないなと感じる。バスの路線に関してもものすごく不便になった。嬉里から市内に行くとしても北陽台団地を経由して道ノ尾に行くため、すごく不便で、これは大変だなというのが今の感想。ただ、長与は色々なことに取り組んでいると、私も色々携わってきて分かることである。

#### (木村委員)

長与は住みやすいという皆さんの一般的な考え方がある。私の自治会は、ニュータウン中央地区であるが、高齢になってきているし、世帯数も減ってきている。それで空き家になったりするが、30代、40代の人次から次へと入ってくる。それを見ていると長与は生活するには住みやすく、魅力や人を惹きつけるものがあると感じる。それについては、総合計画の中には大きな目標として掲げていると思うが、総合計画を支える土地利用の方針を決める都市マスにおいても、その魅力度をどう創っていくか。例えば、まちなかの賑わいが寂れてきている。それをどういう風に回復、修復していくか。そういう「賑わい」とか「楽しさ」とか、そういう土地利用を考えておくべきだと思う。分厚い計画書を見て



いくなかで、検討委員会も頻繁に行っており、それを受けての計画書であり、ひとつひとつに指摘とかはないが、実感として感じていることと併せて「賑わい」「楽しさ」を含めた土地利用をどう創っていくのかを計画書に見えるように分かりやすく、あまりにも簡易的にならないように書いていってほしい。

#### (土井委員)

目標人口 42,000 人はいいなと思うところであるが、事実的に言えば 43,000 人近くまでいって、そこから 40,000 人弱になっている。その間に団地開発で新しい家が建っているから、仮に長与に住みたいと思えば、かなりの人口が住めるような場所の供給はあるのかなど。ただ、実際長与町に住むとなると、極端に言えば長崎市へ通勤通学圏内の人々が居住してくるわけで、長崎市は人口減少をしていっている。私のところの自治会からしても、団地に住んでいるが、空き家が多い。そんな中、高田南や丸田の開発で団地が建ってくると古い団地から新しい団地に引っ越すなどして、逆に長与から長与への町内での流出が出てくるのかなど。先程のニュータウンのように空き家に入ってくるころもあれば、入ってこないところもある。そういった中で人口を維持していくとなると、最終的には雇用関係の確保が一番なのかなと思う。そこを確保しないと、絵に描いたようなまちづくりで終わってしまうのかなど。ただ、それで雇用といっても、そういう雇用を確保できる場所がどこにあるのかなと思うので厳しいかなと感じる

#### (山崎委員)

初めに考えたのが、「幸福度日本一のまちをつくる」というのが最大の目標である。そういう町をつくれれば人が寄ってきて、「長与に住んでよかった」「長与に生まれてよかった」、長与に家族が住んで孫まですぐ会えるような環境になっていく。ただ、子供たちは町外に出ていって、じいちゃん、ばあちゃんしかいないというような、人口転出が多いわけである。その中で幸福度を皆さんがどう実感していくかというわけで、難しいことだなと思うが、悪いことばかり考えては先に進まないで、やはり 42,000 人という目標のために皆さんがひとつになって、長与町を考え、人口を増やし、長与に住んでよかったと思えるような町をつくっていかないといけないと思う。

#### (峰会長)

ありがとうございます。皆さんから色々な形で話していただいて、問題点を出していただきました。これらを今回の都市マスに反映する、反映しない、というのは別として、このように委員さん皆さんが、ある程度、地域の考え方やまちづくり方法等を言っていたことは、非常に良いことだと私自身は思っている。事務局におかれましては、今、委員さんの方から色々な形のお話があったが、何か感想等あれば発言をお願いしたい。

#### (事務局回答)

各委員様方から色々な意見、それぞれのお立場から色々なお話をいただいて、すごくありがたいと思ったところである。最初に山崎委員から意見があった目標人口 51,000 人から 42,000 人に変更した経緯を示した方がいいのではないか、という点だが、それを示してしまうと新旧対照みたいに全てに書かないといけないような対応になる。また、その前段で長与町の現況分析をしており、人口減少していつているという国勢調査の結果とか、核家族化の進展、世帯人員の減少等、社会的な分析を行ったうえで 42,000 人を設定しているため、そのようなところでご理解いただきたい。また、岩本委員が言っていた人口減少対策チーム等を立ち上げて何かしているか、という点だが、対策チームは立ち上げてないが、ここ数年、町長の方も人口減少をくい止めるような施策を常に念頭において職務にあたってくれと、人口増加につながるような施策を何か探しながら取り組んでくれるというようなことで、全職員に町長名で通知を出しており、全職員が危機感をもって対応しているところである。それと人口 42,000 人が適正規模なのか、という点も挙げられたが、元々都市マスにコンパクトシティを目指すということで、コンパクトシティの名称を多く使っているところ。今の長与町の市街化区域の規模が既にコンパクトにできているところ。それがなぜかという、昭和の当初から市街化区域を大きくとって開発してきたわけではなく、市街化区域が小さくとられていて、それでは区域が足りないからということで、ニュータウンや緑ヶ丘等、市街化調整区域だったところに開発をして、市街化区域に編入してきているところ。元々、長与町は市街化区域の人口密度も高いし、コンパクトなまちづくりができていると思う。元々コンパクトなので、このコンパクトさを維持していく、42,000 人を維持していく、というところに着目して設定しているところである。山口委員や佐野委員からも地域公共交通のことを言われていたが、以前、乗り合いタクシーを導入してみて、やはり事業者も赤字だと中々続かないということもある。それについては、やはり都市計画の分野ではなくて、政策企画の分野にもなってくる。政策企画課から聞いたが、コロナになってバス事業者も運転手の確保が難しいため減便体制で運用している。バス事業者としては、これからコロナが落ち着いてまた元の運用に戻すかとなると、コロナで減ってしまった利用者数が以前の運用に戻したからといって、戻ってくるとは限らないということである。一度バスから他の公共交通やマイカーを利用することになれば、またその人たちが、前のようにバスを利用するということにもならない。そのため、都市マスにはバスのルートの増便のことが書いているが、今後かなり難しくなってくる予想はしている。しかしながら、町内の北部、東部地域を中心に、バス等の公共交通を利用するのに不便な地域が確かに存在するため、そのあたりは関係事業者と連携した取組が必要だと思っている。

**(峰会長)**

ありがとうございました。山口部長、前田課長においても何かご意見ありましたらお願いします。

**(前田課長)**

長与町の人口減少のことが結構挙げられたと思うが、先程説明あったように、そこについては、町長も各職員に力を入れるようにということでお願いされているところである。全国的に人口減少は大きな課題であり、本町の最上位計画である総合計画においても人口減少対策における施策を横断的にプロジェクトにして、続けており、全庁的にそれを推進しているところである。しかしながら、人口減少は中々止まらないということもあり、長与町においても2年連続全国の町村の中で人口減少が多い町としてワーストの方に位置している局面になっているが、町においても「子育て」「教育」「健康づくり」等、そういった施策を柱にして、「遊び心」を加えたまちづくりということで推進している。対外的に見ても子育て分野で子育てしやすいまちということで高い評価を受けている。また、教育分野でも長崎県内の小中高においてトップクラスの学力を持っているような結果もでており、健康分野でも高い評価を受けている。そういったソフト面に加えて、グリーンツーリズムや大村湾を活かした環境推進やチャレンジショップ、県立大学との連携等、そういったところを含めて、また、高田南土地地区画整理事業での住宅の受け皿をつくっていくのも人口減少対策のひとつだと思う。そして岩本委員が言っていたコンパクトシティについては、行政サービスの効率化を主旨として挙げているが、先程説明あったように長与町は元々コンパクトであるということに加えて、公共機関の集約化等、さらに住みやすいまちづくりを行うために、コンパクトシティを都市マスの中に盛り込んでいる。人口減少は避けがたい面もあるが、部、課、職員全体でそういった取り組みを続けていって、幸福度日本一のまちを目指して、新たな取組や既存の事業に力を入れていきたいと思っている。そういったことを都市マスの中にまとめている形になっているので、今後ともよろしくお願いたします。

**(山口部長)**

委員の皆様には色々な意見をいただきましてありがとうございます。やはり皆様長与町を愛しているんだなということがひしひしと伝わってきたところである。長崎の現状として、長崎駅周辺の市街地再開発や長崎スポーツスタジアム等、100年に1回の改革の時だと、長崎県が取り組んでいるところで、その長崎市に隣接した長与町においてもプラスに動き、雇用が発生するのではないかと、そういった中で雇用の受け皿として、長崎市に隣接している高田南土地地区画整理事業等を推進してまちづくりを行っている。土井委員が言っていたように雇用の場がないと人口減少に歯止めがかからないということで懸念あるが、全国的に人口減少が進んでいっている中、長与だけ人口を増やすということはそもそも難しいとも言えるが、なんとか人口の下げ幅を緩やかにするような施策をしていって、その中でサービスの質を上げるようなまちづくりをしていくことに転換することが必要であると考えている。そういったところでコンパクトシティや公共交通機関の充実

等、長与町に住んでいただいている人々へのサービスを上げていき、町外に流出することを防ぐ、人口減少幅を小さくするような施策が必要ではないかなど。そして、今回策定する都市マスにおける定期的な確認についてであるが、上位計画に総合計画があり、それに基づいて都市マスを作成しているが、その総合計画においては、毎年、事務事業評価や施策評価を行って、どういった進捗になっているか、庁内全体で確認し、まちづくり以外の共有もしていき、全体で再評価をする中で見直しを行っていく。最終的には10年、20年後を見据えての計画をしていっているが、まちづくり以外の部分も含めて、毎年検証を行っていっているところである。今後も都市マスに沿ってまちづくりをしていくように、町としても町長筆頭に人口減少対策をして取り組んでいくので、今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

#### (峰会長)

ありがとうございました。今、委員の皆様全員から意見をいただいたところであり、それに対して、事務局並びに部長、課長より長与町の取組をお話いただいた。非常にありがたい話でなかったかなと思う。ありがとうございました。これを受けて委員の皆様で感想や他の意見がありましたらお願いしたい。

#### (山崎委員)

まちづくりのところで話すが、今、自治会に入る人が減ってきており、約34%の人が自治会に入っていない、ということのをさっき話で聞いたが、そうなれば、町の回覧板が回らない、自治会で活動していることが見えない、それでなぜ皆辞めるかといったら、班長をするのがきつい、お金を集めるのがきつい、役員するのがきつい、年寄りの方も多いで、それで自治会から離れてしまっている。私の住んでる自治会は、アパートが多いので、若い人なんかも隣の人が入らないのであれば自分も入らない、というような人が多く、半分くらいの人が自治会に入っていないのが実情である。だから、ネットを普通に使える年寄りの人ならいいかもしれないが、何も使えない人は、役場、地域の情報が入ってこない。そういったなかで、まちづくりをしていくのは難しいのではないかなと思う。周りが見えない人もいるので、そういったことをどうやって解決していくかというところで、私としては約34%の人が自治会に入って、みんなで自治会をつくっていかれたらと思うが、そういうことも言っていないので、役場の方がどう考えているのか教えていただきたい。

#### (山口部長)

都市マスのP99にあるような役割分担のイメージのところ「町民」「民間事業者」「行政」が連携であったり、交流をしながら共同でまちづくりを進めていくことを考えている。P98にも重要な担い手ということで、「地域コミュニティ」「自治会」等もあるので、町としても自治会離れが進んでいるということに危機感を持っている。様々なPR活動や何と

かして自治会に入ってもらいたいという啓発活動をしているところであるが、山崎委員が言われているように集合住宅が多いような住宅は、自治会離れが進んでいると担当課から聞いている。逆に言えば、自治会に入っていないなくても平等なサービスが受けられる。サービスが良い、という面もあるが、入ることによるメリットであったり、有事の際の隣同士の付き合いというのも重要なことだと思うので、そういった災害面においても自治会の重要性を唱えて、何とか自治会に入ってもらえるようにしないといけない。強制はできないので、新しく町民になられた方にご理解をしてもらえようような努力をしていきたいと思っている。具体的なことは申し上げてないかもしれないが、自治会への加入を町全体で進めていきたいと思っている。

**(峰会長)**

ありがとうございました。他にありませんか。

**(佐野委員)**

今話を聞いてだが、自治会を理解してもらおう努力をするのは、誰がするのか。新しく引っ越して来られた方に対して。自治会か。

**(山口部長)**

私たちが言えるのは、自治会によってやり方も違うので、町としては、長与町に住民が来た時に自治会のパンフレットを渡したりになるが、町内の自治会に加入してもらおうやり方というのは、自治会ごとに異なり、自治会長さんや役員の方が話に行ったり、班長会議で説明をしたり、色々自治会によってやり方があると思うが、町としては、自治会の重要性を多方面に周知して、加入促進につなげていきたいと思っている。具体的にどういうプロセスをもって取り組んでいくのかということころは、自治会によってやり方が違うということ聞いています。

**(佐野委員)**

自治会長さんが主体的でなければ、それは中々進まないのかなと思う。それと自治会加入のメリットというところで、この前、別の会議で同じような議論があったが、新しく引っ越してきた方に自治会のメリットをどのように伝えるか。

**(山口部長)**

一番は、一人暮らしでの単独世帯が増えている中で、病気になった時の声掛けや防災、災害等の有事が起こった時の助け合いで命を守ることにつながるので、そういった面が、自治会活動というか、自治会に加入するにあたってのメリットなのではないかと考える。自治会加入へのメリット、デメリットは個人それぞれ考え方が違うと思うが、相対的に考

えれば、防災訓練なんかも自治会は行っていて、何かあった時に自分の身は自分で守るための対策を自治会の方でもやっているの、そういったことが身につくというのが、自治会加入のメリットであるのかなと思う。

**(佐野委員)**

結局、メリットというのは心の問題かと思う。その会議で、ある方が言われてたのは、自分自身が自治会長の時、「あなたにもし何かあれば私が助けます」と声掛ける、といていた。そこしかメリットがなくて、具体的に何をすることになった時に、ゴミステーションの掃除をしなければならない、回覧板を回さないといけない、それがあつたら入らない、でも、心の問題でつながっているからこそ、今言ったことが生きてくるのかな。それでは、そこをどうしていくかというところで、自治会長さんからの啓発活動であつたり、自治会主体での声掛けになってくるが、それをどうやっていくかということになるので、言葉だけではなくて、そこをやっていかないといけないと思う。

**(山口部長)**

委員さんからいただいた意見を私たちも受け止めましたし、所管課である地域安全課の方にも話をしてこのような意見があつたということでお伝えしたいと思う。

**(木村委員)**

自治会に入るメリット、デメリットはそれぞれの受け止め方があると思うが、私たちの自治会では、「一人一役、あなたが主役」、自治会の活動はそういうものなんだ。そういうものを通して、要するに、何かあつた時は地域力として、地域のまとまった力として日頃確かめていくもの、それが自治会の活動なんだ。こういう言い方を毎月広報誌で出しながらやっている。それで加入してくれるかといえば分からないが、そういったことを重ねて訴えていくことしかないんじゃないかなと思う。

**【採決】**

**(峰会長)**

ありがとうございます。意見が出尽くしたようだが、他に意見はあるか。

**【なしとの声あり】**

**(峰会長)**

それでは、第1号議案「長与町都市計画マスタープランの改訂について」賛成の方は挙手をお願いいたします。

【出席委員全員の挙手あり】

(峰会長)

全員賛成ということで、承認をいたします。

以上を持ちまして、本日の日程をすべて終了させていただきます。本日はありがとうございました。

【閉 会】